

## 序文



## 復活元年を迎えて

関西大学レスリング部OB会  
会長 清谷 利次

我が関西大学レスリング部は、昭和23年に誕生して、ここに創立50周年の記念すべき年を迎えました。この半世紀の節目にあたり、創部のために幾多のご苦勞をされました先輩の方々に心より敬意を表する次第です。また、我々とともに当部を支え、ご援助を賜りました関係各位に心より御礼を申し上げます。

我が部の歴史を振り返ってみますと、創生期より築かれてきました「伝統」と「栄光」は、栄枯盛衰を経ながらも今日に至っており、誠に感慨深いものがあります。初代OB会長の山本雅之氏は、創部当時の粒々辛苦を「創部30周年記念誌」に述懐されております。当時は、物資不足が甚だしく、その上に練習場の確保も儘ならず、千里丘陵のキャンパスの芝生をマット代わりにしての練習であったとのこと。そのような実情下の創生期にあって、幸いなことに、初代監督として、名選手の誉れ高かった村田恒太郎氏（明治大学OB）をお迎えすることができて、天六学舎地下教室の粗末な設備のもとで、本格的な練習が始まりました。村田氏は古武士然とした気魄の人で、「艱難辛苦の練習に打ち勝つのみ栄光がある」の持論を元にまさに猛練習の日々でしたが、草創期の部員である諸先輩方は、その村田指導法に耐えて応えられました。その成果は、昭和24年の関西学生レスリング連盟春季リーグ戦に初出場するや、関西学院大学、同志社大学を破って初優勝という快挙に結実しました。創部以来、わずか1年余りでこの初優勝は、関大がレスリング界へ踏み出す大きな第一歩となりました。その後、我が部の活躍の場は、全国的なものとなりました。猛練習に裏打ちされた技量の向上によって、国内外での実績を

築き重ね、昭和30年から昭和40年代にかけての黄金時代を築くことができたのです。

さて我が部の現状であります。近年では、1桁の部員数の確保がやっとのことで、懸命の練習の成果も上がらず低迷が続いております。この背景には、かつての学園紛争の折りに「体育推薦入学制度」が廃止されたことや、地味なスポーツへの関心が薄らいでいるという当世若者気質の時代風潮があることから、「復活」への道程は険しく遠いものがあります。ただ幸いにも、「スポーツ推薦入学制度」としての制度復活そのものについて、大学当局の理解が深まりつつあるようですので、一縷の期待を寄せているところでもあります。もちろんのことに、「復活」へ向けての、OB会の支援体制はいままでに増して堅固なものにしたいと念願しております。東京オリンピック金メダリスト市口政光氏を頂点として、世界選手権、全米選手権など国内外で多くのメダリストを輩出し、西日本学生リーグで27回の優勝経験をもつ我が部の栄光を、再び、奪還するという願いは、OB会にとどまるものではなく、現役諸君の目指す目標でもありましょう。そのためには、伝統を大事にしながらも、新しい理論や練習方法を大胆に採り入れることも当然の施策となりましょう。そして51年目が、まさに「復活元年」の礎となるためにも、再スタートしたいものです。

最後になりましたが、この50周年を迎えることなく物故されました諸兄に深甚なる哀悼の意を捧げますとともに、常日頃、我が関西大学レスリング部に対して、数々のご厚情を頂戴しております関係各位に、倍旧のご指導ご鞭撻を重ねてお願い申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。